

“slim ジャパン” プロジェクト

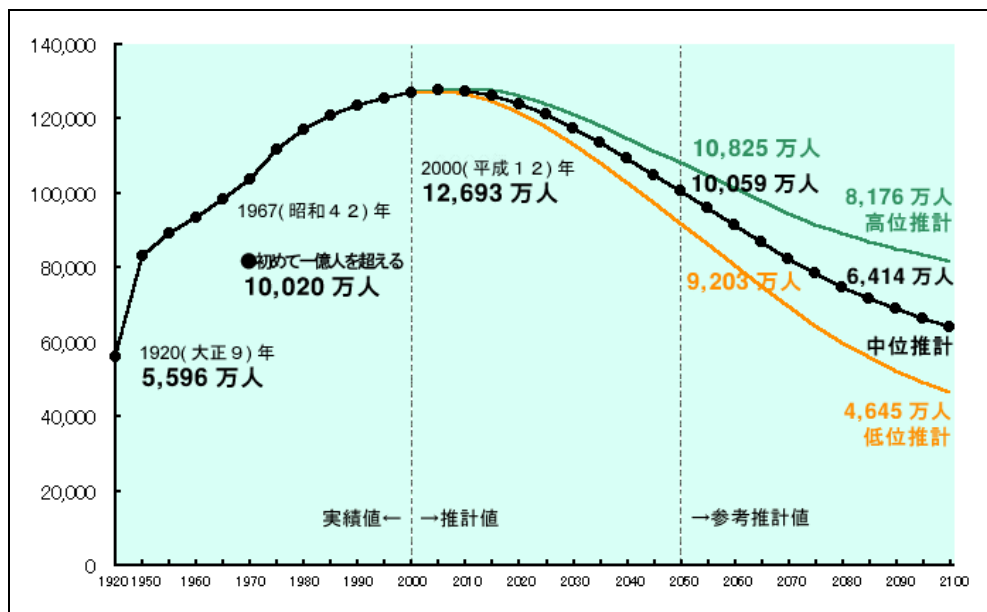
(注) 「slim ジャパン」は、未来工学研究所により商標登録申請中です

■ 21世紀は「人口減少時代」

2005年、日本の人口はマイナスに転じました。人口減少のトレンドは今後とも変わらず、2100年には現在人口の半分、すなわち6千万人台にまで落ち込むという予測が出ています（下図参照）。急速な少子高齢化とあいまって、これからの100年間、日本はまさに未体験ゾーンに突入するわけです。

このような「縮小社会」の未来予測については、とかく悲観的なシナリオが描かれることが多いのですが、量的拡大から質的充実へ、「右肩上がり」の社会経済システムからの脱却、という前向きの発想が求められています。

今後100年間の日本の人口の見通し



資料：「日本の将来推計人口（2002年1月推計）」国立社会保障・人口問題研究所

■ “slim ジャパン” プロジェクトの提唱

未来工学研究所は、1971年の設立以来、常に未来を見据えて、さまざま問題提起や調査研究を行ってきました。

今般、21世紀の人口減少時代における日本の新たなサバイバル戦略を“slim ジャパン”プロジェクトとして、多角的かつ継続的に展開してまいります。

slim とは、文字通り社会全体が「スリム」になることをめざすとともに、以下の4つの言葉のイニシャルから構成されています。

Sustainable	= 持続可能な
Livable	= 住むに値する
Innovative	= 革新的な
Matured	= 成熟した

すなわち、単なる人口規模の減少だけに目を奪われないこと。環境やエネルギー面で **Sustainable** であること、日々 **Livable** な生活が送れる社会であること、技術や制度・システム面では常に **Innovative** であること、そして文化・社会として **Matured** であること、といったことが実現する社会づくりをめざしています。

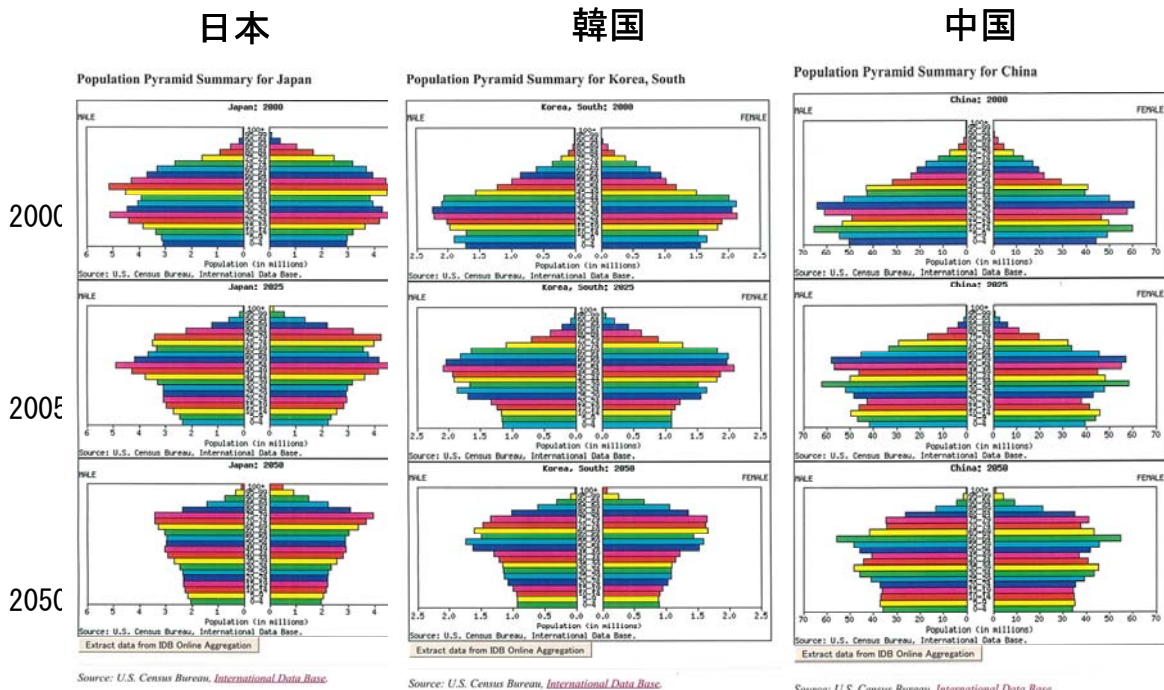
■ 少子高齢化&人口減少は、東アジア・世界の共通課題

少子高齢化や人口減少は、日本固有の社会問題ではありません。韓国、台湾、シンガポール、マレーシアなど東アジアの諸国・地域においては、高齢化と少子化の急速な進行が、今や大きな社会問題となりつつあります。人口大国の中国においても、一人っ子政策の影響や、沿海都市部での出生率低下などが顕在化しつつあります。

現在、日本で起こりつつある現象は、四半世紀遅れて、これらの国においても深刻な社会問題となることが予想されています。人口減少問題は、日本国内の問題であると同時に、国際的に取り組むべき課題なのです。

即効的な外国人移住や外国人労働力確保対策でなく、国境を越えた横断的な政策立案とビジョンの共有が必要になってきます。

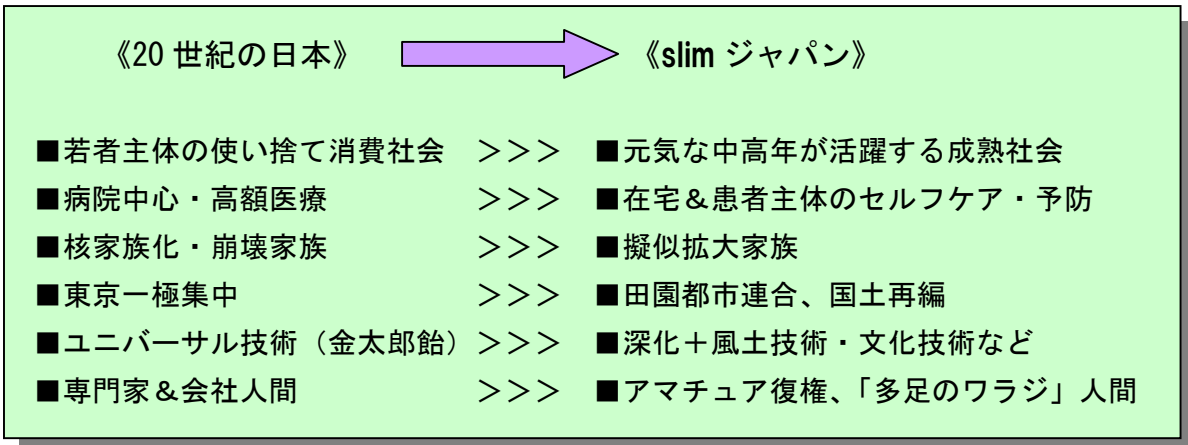
日・韓・中の長期人口予測（2000-2050）



■ 21世紀型の新しい社会のグランドデザインが必要

“slim ジャパン”プロジェクトで描こうとしているビジョンは、医療・福祉・社会保障といった領域にとどまるものではありません。

ライフスタイル、家族形態やコミュニティ、科学技術、R&D、交通運輸、情報技術や情報通信インフラ、産業構造・就業形態、経営・組織体、行政システム、都市あるいは地域社会、安全保障やセキュリティ、さらには文化、国際関係といった領域にまで、ドラスティックな変革をもたらすことが予想されます（下図参照）。



■ 当面の課題解決から、中長期的視野からの戦略立案へ

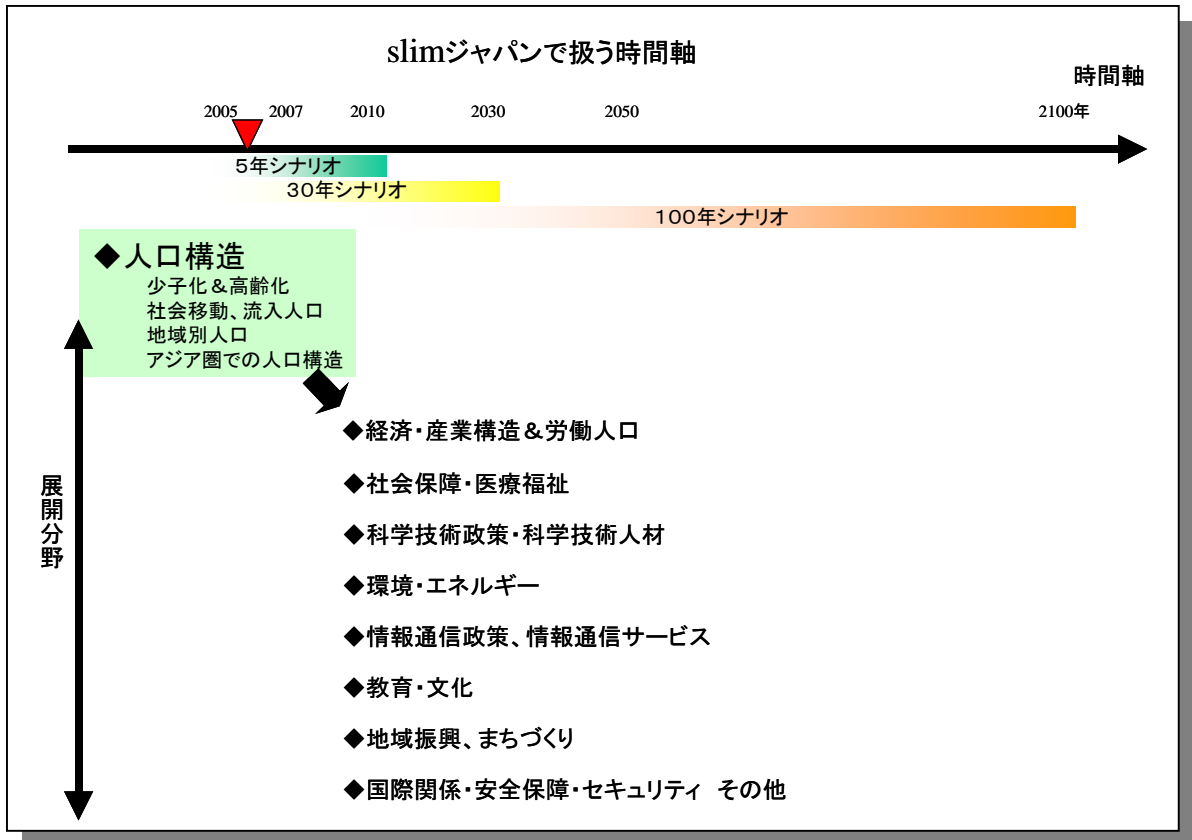
人口減少あるいは少子高齢化対策として、近年、国や自治体などで、様々の対策が講じられようとしています（出産・子育て優遇策、2007年の団塊世代大量定年対策など）。これらは、多くは、当面の短期的な対策です。

“slim ジャパン”では、このような動きを視野にいれながらも、今後数十年から100年という「中長期的視野」からの戦略立案をいたします。

- ◆短期シナリオ：2007年から2010年前後をピークとしたシナリオと対策。
- ◆中期シナリオ：2030年までの「人口急減期」のシナリオと対策
- ◆長期シナリオ：2030年以降の「人口安定期」のシナリオと対策

すなわち、私たちの取り組みの基本スタンスは以下の通りです。

- (1) 「人口減少」をキーワードとして、日本の中長期未来シナリオを描く。
- (2) 人口構造は、各種政策・社会動向などにより多少の影響は受けるが、「人口減少」という社会トレンドは基本的には変わらないという前提。
- (3) 人口構造データをベースとして、中長期的視点から、経済・産業、社会、医療福祉、教育・文化、政治、国土政策、環境・エネルギー、科学技術、国際関係などの諸分野における影響予測と関連する政策提案を行う。（次ページ図参照）



■未来工学研究所が取り組もうとしている具体的な課題

このような視点から、未来工学研究所が“slim ジャパン”において取り組む具体的な課題としては、以下のようなものがあります。（*はすでに着手・開始しているテーマ）

■基本シナリオ作成

- * ①今後 100 年を見据えた短期・中期・長期シナリオ作成と対策の体系的整理
- ②「日本のあるべき姿」（アイデンティティと方向性）とは？

■医療福祉・社会保障

- * ③統合医療の総合的推進
- * ④高度医療からヘルスケア・健康増進政策への転換

■人材育成・教育

- * ⑤次世代を担う研究者・技術者の養成・確保
- * ⑥研究支援人材の拡充
- * ⑦知識コーディネータ、科学技術コーディネータの育成・活用
- * ⑧教育の多様化と学校の変容
- * ⑨知識社会を支えるための大学システム改革
- * ⑩ ICT を活用した遠隔教育・e-ラーニングの展開
- ⑪世代を越えた知恵と経験の交流システム構築

■技術開発・研究開発

* ⑫効率的で有効な研究開発マネジメント手法・人材の開発

⑬分野横断型研究マネジメント

■産業・経済・就労

⑭人口減少時代における国際産業競争力の強化

⑮ポスト団塊世代を中心とする新しいワークスタイル

⑯食における新しいビジネス・事業展開

⑰人口減少時代における農林水産産業の維持・管理

⑱slim時代における「ものづくり戦略」

⑲ニート、フリーター対策（ICT活用など）

⑳人口減少時代における労働力増強のための情報通信技術の利活用

■生活・文化・ライフスタイル

* ①新しいライフスタイルの提案と生活サービス展開

* ②21世紀型日本文化の世界へむけての発信、

* ③新・文化産業の育成

* ④ICTを活用した子育て・介護者と仕事との両立

■情報通信

* ⑤slim時代における住宅情報化・ユビキタスサービス

* ⑥高齢者・子ども向けITサポートサービス

■安心・安全・セキュリティ

⑦外国人受け入れに伴う社会安全の弱体化

⑧防災人材の高齢化とICT活用

■環境・資源・エネルギー

⑨人口減少に伴う環境負荷・エネルギー消費の変化

⑩人口の集中・分散における生活環境管理・維持

⑪新エネルギー技術・省エネルギー技術の確立

⑫環境負荷低減をめざす産業構造・生産プロセス

■国際関係・安全保障

⑬東アジア諸国における少子高齢化の社会的影響

⑭石油資源の争奪とエネルギー政策の転換

⑮国際的視野からの食糧自給戦略見直し

⑯予算縮小に伴う防衛力の変更

■具体的な活動形態

未来工学研究所では、“**slim ジャパン**”プロジェクトを推進するにあたり、次のような活動を展開していきます。

◆有識者・専門家を交えたフォーラム・研究会の開催

◆具体的な分野・テーマを設定した自主研究・助成研究の実施

- ◆国・自治体・民間などからのプロジェクト化推進
- ◆各種媒体を活用した情報発信

■未来工学研究所の担当■

総括責任者：長谷川 洋作（未来工学研究所 所長）

プロジェクトマネージャ：和田 雄志（21世紀社会システム研究センター長）

yj.wada@iftech.or.jp